

1. 件名：福島第一原子力発電所における高性能容器(HIC)内スラリーの移替え作業に係る面談
2. 日時：令和3年11月4日(木) 13時10分～15時30分
3. 場所：原子力規制庁18階会議室
4. 出席者
原子力規制庁
原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
竹内室長、岩永企画調査官、澁谷企画調査官、正岡管理官補佐、
高松専門職、久川係員、高木技術参与

知見主任安全審査官(テレビ会議システムによる出席)
平山技術参与、吉田技術参与、近藤技術参与、鈴木技術参与、林技術参与
(テレビ会議システムによる出席)

福島第一原子力規制事務所(テレビ会議システムによる出席)
小林所長、廣岡原子力防災専門官、坂本原子力運転検査官

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー
プロジェクトマネジメント室 担当1名(テレビ会議システムによる出席)
福島第一原子力発電所 担当6名(テレビ会議システムによる出席)

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社(以下「東京電力」という。)から、高性能容器(以下「HIC」という。)内スラリーの移替え作業について、資料に基づき以下の説明があった。
 - 低線量HIC 1基目移替え作業時のダスト濃度の再評価
 - 低線量HIC 1基目の追加調査
 - 低線量HIC 2基目移替え作業
- 原子力規制庁は、上記の説明を受けて、
 - 低線量HIC 1基目の移替え作業時の連続ダストモニタのトレンドグラフについて、バックグラウンド(検出下限値)の値がダストモニタ毎に大きく異なっており、特に資料p5、p6(8/19、8/24作業時)のグラフではおおよそ1桁近い乖離が見られる。乖離の原因がダストモニタ内部の汚染状況の個体差によるのであれば、その寄与やバックグラウンド γ 線の寄与等を含め、ダストモニタ測定値として示している空气中放射性物質濃度の算出及びプロット方法の詳細等を整理して示すこと。
 - 低線量HIC 1基目の追加調査の目的について、今後予定している高線量HICスラリー移替え作業における安全対策の検討との関連性を整理した上で示すとともに、高線量HICスラリー移替え作業に対する安全対策の策定に至るまでのシナリオの全体像を示すこと。
 - HICフィルタ破損後に代替措置として使用している代替フィルタの構造や性能の詳細について、高線量HIC内スラリーの放射能濃度がこれまでより4桁近く上昇することを前提とした考察とともに示すこと。

等を求めた。

6. その他

資料：低線量HIC移替え作業（1基目）の状況及び低線量HIC移替え作業（2基目）の概要